

「神に喜ばれる教会」

Ⅱコリント9：6-11

堀田修一 22・5・15

本日は、この一年間の教会の決算を承認する大切な臨時総会である。この大切な日に、神の溢れる恵みに感謝して神に捧げる恵みについてみことばから教えられたい。

I 神に捧げ物をする前に、三位一体の神の先行的恵みを数え深く神に感謝する

1. 個人的に日ごとの糧が与えられている恵み。当然ではなく神の恵み。主の祈りへの神の答え「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください」マタイ6：11。今日まで、神が私たちに命を与え体を守っておられる恵み。命は、世界中のお金でも買えない。神の大きな恵み。神の時に生まれ、神の時に死を迎え、天国に召され、神にお会いし神に憩い、神を賛美し礼拝する恵みに加えられる。
2. 教会も、この一年間、神は、教会の必要を満たしてくださいました。「神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます」ピリピ4：19。礼拝後、毎週会計の奉仕をしてくださる兄弟姉妹にも感謝したい。
3. 霊的な恵みに心から感謝したい。主イエス・キリストの恵み：私たちのための十字架、復活、再臨による悪のさばきと救いの完成、新天新地、栄光の体への復活、父なる神の愛：罪の赦し、永遠の命、永遠に愛してくださる愛。神であり人格を持っておられる聖霊の交わり：神との交わりと互いの交わりを産み出してくださる。罪を示し、その罪のために主が十字架で死なれた恵みを信じる信仰を与えてくださる。主を信じ洗礼を受けた後も、慰め、励まし、悔い改めに導き、みことばを教えて下さる。

Ⅱ すべてのものを与えておられる神への感謝の捧げ物

1. 恵みの十分の一の捧げ物『どのようにして、私たちはあなたのもの（神のもの=十分の一）を盗んだでしょうか』と。十分の一と奉納物（新約時代の適用：十分の一以外の礼拝献金、感謝献金、指定献金等）においてだ。…十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家（新約時代の適用：主の教会）の食物（教会運営の必要に当てる）とせよ。こうしてわたしを試してみよ。一万軍の主は言われる—わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか」マラキ書3：8，10。※もともと、十分の一は神のもの。創世記14：20。28：22。レビ記27：30。それ故、十分の一を捧げるべきか迷うのはおかしいことである。私たちは、他の人のものを借りておきながら、それをその人に返すべきかどうか迷ったりしない。十分の一を捧げるのは、十分の十が神から与えられていることを忘れないため。また、民の十分の一の捧げ物は、神の働きに集中するレビ人の生活費に用いられた。レビ人は、民の十分の一の捧げ物から与えられたもの十分の一を神に捧げた。民数記18：26。この原則は、新約時代の教職者の生活の必要を教会が支えることに通じる。「主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働き（により建て上げられた教会）から生活の支えを得るように定めておられます」Iコリント9：14。教会の働き人は、愛する教会から経済的に支えられることにより、大切な説教、伝道、牧会（人々の悩みの相談に耳を傾け寄り添い祈り支える）に専念させて頂く。教会の働き人も、主が教会

を通して下さる謝儀の中から喜んで神と教会に十分の一の他に感謝の捧げ物をする。そのようにして伝道と教会形成は成される。神の恵みへの感謝からの捧げ物により、教会も経済的に支えられ福音宣教、教会活動、会堂の補修がなされる。当教会は、開拓当初から、この尊い聖書的な十分の一の捧げ物、月定献金が恵みとして教えられたことは幸いな恵み。※当教会は良く献げる教会。※私は洗礼前に十分の一献金を教えて頂いたことを心から感謝。※教会の開拓者が、最初から聖書的な十分の一献金を教えなかった教会、教団は、残念ながら成長していない歴史がある。伝道牧会に専念して下さる働き人を招き支える自覚が教会にないからである。十分の一の捧げ物を惜しんで実行しないのはもったいないことである。なぜなら、十分の一献金には、素晴らしい恵みの約束がある→「こうしてわたし（神）を試してみよ。一万軍の主は言われる－わたしがあなたがたのために天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうか（試してみよ）」マラキ3：10。世界中のクリスチャンが十分の一の捧げ物の祝福を経験している。私も主を信じて47年、この祝福を経験していません。※教会と信徒の方の恵みの証。

2. 十分の一の捧げ物は、旧約時代の定めで、新約時代には適用できないという教えがある。しかし、それは聖書的ではない。なぜなら、新約時代にこの世に来られた主イエスが次のことを教えられた→律法学者やパリサイ人に「十分の一もおろそかにしてはいけない」（マタイ23：23）と。その間違った教えのリーダーは、地域教会の教会形成を重んじない。公同の教会だけを強調する。それは聖書的ではない。聖書は、明確に、ローマ、コリント、ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサイ、テサロニケ、ヘブルの地域教会の形成を重んじている。地域教会は、神への感謝の十分の一や礼拝や感謝の捧げ物により時満ちて、働き人を招聘し、各教会が協力し合い、全世界に福音が前進している。使徒信条で告白する「公同教会」は、地域教会と天での教会を一つとするものが主の体なる教会としての「公同の教会」の意味※聖書の終末論、主の再臨への教えも違うものが日本に広がっている。私は、今、終末論、主の再臨について聖書から学ばさせていただいている。主の時に礼拝説教で説き明かす準備をしています。お祈り下さい。日本の教会が分裂せず、聖書により一致が保たれるように！

3. 励ましのみことば：

①「一人ひとり、いやいやながらではなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える（神が、まず、喜んでイエス様を救い主として私たちに与えられた。また、イエス様も喜んで私たちの救いのために十字架で命を下された）人を愛して下さるのです。神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれるようになるためです」Ⅱコリント9：7，8。

「マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵み（教会員が進んで捧げる恵み）を、あなたがたに知らせようと思います。彼らの満ちあふれる喜び（神の救いの喜び、神に愛されている喜び）と極度の貧しさは、苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。私は証します。彼らは自ら進んで、力に応じて（十分の一を捧げ）、また力以上に（十分の一以上に心からの感謝をもって）献げ、聖徒たち（聖徒たちと教会）を支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもって私たちに懇願しました。そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがって、まず自分自身を主に献げ（これこそ礼拝の本質。ローマ12：1）、私たちにも委ねてくれました」Ⅱコリント8：1-5。

② 自ら進んで献げた後、自らを誇ることなく、与え主に感謝し、神の栄えに満ちた御名をほめたたえる清々しい賛美、礼拝の姿と祈り。ダビデは言った。「神、主よ。あなたがとこしえからとこしえまで、ほめたたえられますように。主よ、偉大さ、力、輝き、栄光、威厳は、あなたのものです。天にあるもの地にあるものすべて。主よ、王国もあなたのものです。あなたは、すべてのものの上に、かしらとしてあがめられるべき方です。富と誉れは御前から出ます。あなたはすべてのものを支配しておられます（天も地も、私たちの命と人生の痛みも喜びも、世界の歴史と出来事も、これからの世の終わりと真の希望の主の再臨のタイミングも）。…今、私たちはあなたに感謝し、あなたの栄えに満ちた御名をほめたたえます。このように自ら進んで献げる力を持っているとしても、私は何者なのでしょう。すべてはあなたから出たのであり、私たちは御手から出たものをあなたに献げたにすぎません」Ⅰ歴代誌29：10-14。

「主の祈り」に通じる「御名があがめられますように」。

祈り：最後のみことばをもってお祈りします。